

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経 営 状 況 説 明 書

平成27年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

平成27年4月1日から平成28年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の平成27年度事業実施に当たり、山鹿市の5つの「公の施設」の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。

また、自主事業及び公益目的事業を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

- (ア) 「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、ボランティア活動を積極的に支援し、観光都市山鹿を訪れる観光客の受け入れ体制の充実を図った。
- (イ) 「山鹿市旅先案内人の会」が、祝日、毎週土・日曜日に温泉プラザに設置された山鹿灯籠展示室の案内ボランティアを実施した。
- (ウ) サイクリングターミナルにおいて、夏・冬休みを利用し子供たちが集団生活をするにより、友人との協調性を学ぶ「わくわくどきどき宿泊体験」を開催した。
- (エ) 青少年の健全育成を目的に、サイクリングターミナルで年3回小学生を対象とした季節に応じた物づくり体験やファミリークイズラリーなどの「日帰り体験」を実施した。
- (オ) 八千代座において、地域に根ざした芸術文化の創造を目的に狂言、子ども歌舞伎教室等の八千代座文化講座事業を実施した。
また、「くまもと子ども芸術祭」や大宰府で開催される「ちびっ子夢ひろば」に子ども歌舞伎が招へいされた。
- (カ) 八千代座を支えた文化のひとつに「映画」がある。そこで、八千代座で映画上映会を実施することにより、地域で失われている映画鑑賞機会の提供と映画文化の推進を図った。
- (キ) 市民の運動不足の解消、健康増進等を図る目的で、市内外、男女、年齢に関係なく楽しめる「第14回新春ビーチボールバレー大会」を実施した。
- (ク) さくら湯の龍の湯を活用し市内小学生1年生を対象に温泉入浴マナー等を学ぶ入浴体験及び市内金婚夫婦招待事業を山鹿市と共同で実施した。
- (ケ) さくら湯において「アロマセラピー教室」、節目を記念した「開湯千日祭」、細川流盆石展等「山鹿湯町企画展」を実施した。また、季節の年中行事として「菖蒲湯」、「金柑湯」等を実施し入浴者数の増加を図った。
- (コ) さくら湯入湯50万人記念事業として、休館日に浴場を会場に「山鹿温泉奉納コンサート 湧出長久」を実施した。

(サ) 山鹿温泉湯町めぐりとして8つの共同浴場と提携し、スタンプラリーを実施し山鹿の温泉地としての観光振興を図った。

(シ) 総合体育館において、「ジム・講座・ダブル」3種類の会員制度を導入し、体育館の活性化を図った。また、スポーツトレーナーによる高齢者も参加しやすいプログラム等を取り入れた「健康運動教室」を開催し、市民の体力増進、健康維持を図った。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

(ア) 山鹿市名刺録を発行した。

(イ) 西南の役の史実である山鹿口の戦いを市内外に知ってもらうため「西南の役山鹿口の戦い」を販売した。

(ウ) 会社のホームページ及びダイレクトメールを活用し、施設及び物品を紹介し、利用者の拡大を図った。

ウ その他の関連事業

(ア) 観光名刺台紙の販路拡大を図った。

(イ) 山鹿市のお土産品としてキティグッズを販売した。

(ウ) 山鹿の伝統産業「灯籠」をモチーフとした手持ち灯りを開発・販売した。また、手持ち灯りを活用した制作体験を実施した。

(エ) サイクリングターミナルの宿泊増加のため、大会及び合宿団体に無料昼食券及びさくら湯の入湯券を提供した。

(オ) 小学生から高齢者まで灯籠の制作過程を理解していただくために、「ミニ灯籠」制作体験を実施した。

(カ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(キ) カルチャースポーツセンターとさくら湯の連携事業として、「アロマの香りとヨガによる健康運動教室」を実施し、次年度開講講座の試行とした。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」	さくら湯、サイクリングターミナル 市民スポーツセンター、八千代座等 カルチャースポーツセンター
-------------	---

「受託業務」	山鹿灯籠展示室の受付業務 灯籠踊り保存会及び観光振興業務 博物館の受付業務 情報発信拠点創り事業 等
--------	---

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息9,000円、文化振興福祉向上事業費収入（公益目的事業収入）1,887,040円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入2,078,140円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金191,627,467円、雑収入及び投資活動収入1,636,870円、前年度繰越金52,720,493円（基本財産3,000万円含む）を加えた公社事業費総収入額は、249,959,010円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業（文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業）経費3,751,666円（公益目的事業含む）、「公の施設」管理運営等に伴う経費170,391,960円（公益目的事業含む）、公社事務局運営費4,429,423円、特定預金支出1,880,000円、租税公課11,851,800円、公社事業費支出費総額は192,304,849円（内公益目的事業10,713,872円）であった。

5 その他の事項

平成28年度への繰越金は、57,654,161円（基本財産3,000万円含む）である。